



新年明けましておめでとうございます。

2021年以来、4年ぶりに外務大臣に就任いたしました。前回の外務大臣当時と比較しても、日本を取り巻く安全保障環境は一層厳しくなっています。ロシアによるウクライナ侵略や、不安定な中東情勢に加えて、我が国の周辺においても、中国の外交姿勢や軍事動向、北朝鮮による核・ミサイル開発、露朝軍事協力といった懸念すべき動きが見られます。こうした中、法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序を維持・強化することの重要性は一層高まっています。

外務大臣就任以来、マレーシアでのASEAN関連首脳会議、韓国でのAPEC閣僚会議、カナダでのG7外相会合などに出席し、また、トランプ米国大統領や各国の外務大臣を日本にお迎えして、同盟国・同志国との会談を精力的に行ってきました。日本外交に対する期待感が間違いなく増していると実感しております。日本が主導してきた「自由で開かれたインド太平洋（FOIP）」は今年で10年目を迎えます。引き続きこのFOIPを日本外交の柱として、時代の変化に合わせて進化させていきます。また、その実現に向け、同盟国・同志国や



茂木敏充
外務大臣

グローバル・サウス諸国ともきめ細やかに連携していきます。さらに、各国と多面的な経済外交を推進していくと同時に、重要鉱物を含むサプライチェーンの強靱化など、経済安全保障の取組も強化していきます。

厳しい国際情勢の中、外務大臣として、様々な分野で国際社会から期待される日本の役割と責任を果たしていくことで、断固として国益を守りつつ、国際社会でより存在感を高める「力強く、視野の広い外交」を展開していきます。

本年も、日本外交に対する御理解と御指導をお願い申し上げます。また、貴協会の皆様の御健康と御多幸を心から祈念申し上げます。

新春 メッセージ

「力強く、視野の広い外交」で存在感

混迷の時代にこそ民間外交の責務

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、パンデミック後としては初めてとなる海外訪問団をベトナムへ派遣し、民間外交の原点である直接交流をようやく再開することができました。また、在日大使館との連携によるビジネスフォーラムや文化フォーラム、オンラインと対面を組み合わせた講演会など、多様な活動を展開し、多くの皆様にご参加いただきました。こうした取り組みを通じ、国際社会とつながる意義を改めて実感するとともに、交流の機会がいかに多くの可能性をもたらすかを強く感じた一年でありました。

本年は、昨年以上に積極的に海外に目を向け、アセアン諸国をはじめ、モンゴル、インドなどへの訪問団派遣を計画しております。会員のみなさんの活動を通じて、我が国と各地域の相互理解と発展に寄与してまいります。昨年開催された大阪・関西万博では、多様性と共創を掲げるテーマのもと、技術革新や文化交流が世界から集い、多くの人々に感動を与えました。この成果とレガシーは、地域活性や国際連携の強化に資するものであり、協会が進める民間外交と深く結びつくものであります。私たちもその理念を継承し、交流事業へとしっかり活かしていきたいものです。

一方、国際社会は依然として不安定な状況に置かれています。ウクライナ情勢は長期化し、中東では緊張の再燃が地域全体に影響を及ぼしています。



渡部賢一
FEC会長

先行きの見えにくい環境の中で、多くの人々が不安と困難に直面している現実を、私たちは深い憂慮と受け止めています。こうした時代だからこそ、草の根レベルの交流や相互理解を積み重ねていく民間外交の役割は、以前にも増して大きな意義を持つと考えております。

本年も、混迷する世界の中で求められる役割を一人ひとりが見据え、未来への歩みを力強く進められることのお手伝いを協会としてしっかりやって参ります。これまでの経験を礎に、新たな発想と行動力を加えながら、民間外交を通じた平和で持続可能な国際社会の構築の一助になれば幸いです。

結びになりますが、皆様とご家族のご健勝とご多幸、そして益々のご発展をお祈り申し上げます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

（TMI総合法律事務所顧問）

全議案可決、4月1日を日途に法人化へ

FEC臨時総会・臨時理事会

民間外交推進協会（FEC、会長・渡部賢一・TMI総合法律事務所顧問）は11月21日、令和7年度臨時総会及び臨時理事会を帝国ホテル東京にて開催した＝写真。臨時総会及び臨時理事会において提案されたすべての議案が原案通り可決承認された。

臨時総会を開催するにあたり渡部賢一会長は「本日の臨時総会および臨時理事会は、当協会が一般社団法人としての法人格を取得するための第一歩となる会議です。これまで長年にわたり、民間外交の推進にご尽力くださっている役員の皆様、会員の皆様に深く感謝申し上げますとともに、法人化に向けて皆様から率直な

ご意見を頂ければと思う」と挨拶。議事録署名人が選出され、続いて、石原達夫代表監事より同総会が定款に則ったものである旨の報告を受け審議に移り、松澤建理事長より1つの議案について説明を行った。

第1号議案「一般社団法人としての法人格取得の件」は原案通り可決承認された。本可決を踏まえ、民間外交推進協会は2026年4月1日を日途に、「一般社団法人 民間外交推進協会」として法人化の準備を進めていくことになった。

続いて臨時理事会でも、議事録署名人の選任に続き監事より同理事会が定款に則ったものであるとの報告を受けて審議



に移り、松澤理事長より2つの議案についての説明が行われた。

第1号議案「互選による副会長選任の件」について副会長1人（新任）を選任することが可決承認された。第2号議案

「定款施行規則変更の件」では臨時総会において定款変更が承認されたのを受け、事務局は定款施行規則案を上程可決承認された。

会員懇親会 大使、外交団など250人が参加



来賓挨拶に耳を傾ける懇親会参加者

FECの法人化を進めることが可決された臨時総会及び臨時理事会終了後開催された会員懇親会には、約150人のFEC会員、60人の駐日各国大使並びに外交団のほか、外務省関係者ら総勢約250人が出席し盛会となった。開会に際し松澤建FEC理事長が挨拶。続いて、来賓の2015年ノーベル生理学・医学賞受賞者の大村智・北里大学特別栄誉教授と船越健裕外務事務次官がお祝いの言葉を述べ、ジャン＝エリック・パケ駐日欧州連合大使からのビデオメッセージが披露された。

その後、渡部賢一FEC会長が乾杯の挨拶を述べ、一同乾杯の後の懇親会では、獅子舞と曲芸を組み合わせた、日本の伝統的な芸能である江戸太神楽が披露され、会場は大いに盛り上がった。

その後も和やかな雰囲気のもと会員相互の交流の場として盛り上がり、出席者からは「FECが多岐にわたる有意義な活動をしていることが良く理解でき、大変良い会だった」「普段話す機会のないアフリカや中東など多くの国々の大使、外交団の方々と触れ合うことができて良かった」との声があった。

【乾杯のご発声】

渡部賢一FEC会長



また、出席した外交団からも「多くの国々と交流を行っているFECならではの懇親会であり、会員の皆様との交流を楽しめた」など、多くの祝賀や慰労の言葉が寄せられ盛会裏に終了した。

【会員懇親会主催者代表挨拶】

松澤建FEC理事長

本日はご多用の中、民間外交推進協会の懇親会にご参集賜り、心より御礼申し上げます。

本日は各国大使はじめ、外交団の皆様にご参加くださり、我々は更に各国との交流を進めたいと存じます。

私どもは今後とも努力してまいりますので、引き続き皆様のご指導とご協力をお願い

申し上げます。本日はごゆっくりお過ごしくださいませ。

ありがとうございました。



各国駐日大使も参加



大使館からの参加者と記念撮影をする個人会員



大使館からの参加者同士も交流



大使と記念撮影をする会員

【来賓挨拶】

大村智北里大学特別栄誉教授

(2015年ノーベル生理学・医学賞受賞)

皆様、こんばんは。
ご紹介頂きました北里研究所の大村でございます。
このようにFECメンバーの皆様方が多数お集まりの席でご挨拶をさせていただきますこと、大変光栄なことでございます。



私の親友で、FECの理事長を務めておられる松澤建氏より、FECの活動の様子をお聞きしております。また、幸運にも先般同氏との対談をFECニュースの10月号に掲載していただきましたこと、望外の喜びでございます。
我が国の政府が政策を決定する段階、あるいは実施する過程でのFECの皆様への活動は欠かせないものであります。それによって、我々国民が安心して暮らせる国際社会が形作られることを思いますと、極めて重要な役割を担っている皆様の活動に感謝申し上げます。
今後とも、我が国が国際社会における役割を着実に果たすことができるよう活動を推進されますことを期待いたします。会員の皆様、そして本日お集まりの皆様のご健勝とご多幸をお祈りして挨拶に代えたいと存じます。
ご清聴頂きありがとうございました。

【ビデオメッセージ 訳文】

ジャン＝エリック・パケ
駐日欧州連合代表部(EU)大使



「栄えあるこの集いにおいて、皆さまにお話しできることを光栄に存じます。また、直接お会いできずに誠に申し訳ございません。
貴協会の基本理念は、他の国の人々との友好、協力、相互理解を推進して、世界の平和と繁栄に貢献していくことであります。
今年開催された2025年大阪・関西万博の成功は、政府、民間企業、そして一般市民の交流が国境や文化を越えて、尊敬と理解を深めることを証明するものでした。5月に万博会場で松澤理事長をはじめとする貴協会の皆様と交流できましたことを大変嬉しく思っております。
世界はまた、科学技術の進歩によってもより緊密な接点を持つようになりました。今夜は2015年ノーベル生理学・医学賞受賞の大村博士のご臨席を賜っております。今年はさらに坂口志文、北川進両博士もノーベル賞を受賞され、学術・研究分野における日本の持続的な卓越性を示しています。
しかし私たちの世界は、地政学的・地経学的な力の大きな変動を特徴とする過渡期にあります。競合するビジョンやアジェンダが、長年確立されてきた多国間ガバナンスの枠組みやルールに基づく国際協力に挑戦を突きつけています。
何世紀にもわたり人類を前進させてきた本質的な要素—他文化への敬意、科学的知識と発見

の共有、貿易・教育・投資を通じた国境を越えた連携による相互利益の確保—が今、試され、弱体化の危機にさらされています。
欧州連合は、多国間主義—共通の解決策に向けて協力して取り組むこと—が、こうした傾向に対抗し、すべての人々にとってより安全で安定した世界を確保する最も効果的な手段であると確信しており、日本は、ルールに基づく国際秩序を維持・促進するEUの取り組みにおいて、最も重要なパートナーの一つです。
今夜これほど多くの方々にご出席されていることは、私たちが互いに学び合い、協力し合い、共に明るい未来に向けて取り組む意欲に満ちている証左です。民間外交推進協会とその会員の皆様が、たゆまぬご尽力により相互理解の促進に貢献されていることに感謝するとともに、今後も緊密な連携を維持できることを願っております。
ご清聴ありがとうございました」

【来賓挨拶】

船越健裕外務事務次官

本日はここ民間外交推進協会（FEC）の会員懇親会にお招きいただき光栄に存じます。外務事務次官の船越でございます。
昨今、我々が慣れ親しんだ自由で開かれた安定的な国際秩序は、パワーバランスの歴史的変化と地政学的競争の激化に伴い、大きく揺らいでおり、同時に、我が国は戦後最も厳しく複雑な安全保障環境に直面しています。
こうした中、国民の皆さまお一人お一人が安心して暮らせる国際社会を形作ることは何よりも重要であり、外交当局として、FECをはじめとした民間の皆さまのご理解とご協力を得つつ力を尽くしているところです。民間外交推進協会におかれては、1983年の創設以来、民間の観点から各国との交流・相互理解を深める活動を続けていただき、心から敬意を表します。
国際社会が様々な難しい挑戦を抱えている中、高市総理は「世界の真ん中で咲き誇る日本外交」を進める旨を述べており、各国と連携して乗り越えるべき課題に真摯に向き合うことが何よりも重要です。引き続き政府レベルにおいて様々な国々との相互理解・連携・協力を深め、手を携えてより良い世界を築くべく尽力することはもちろんですが、民間レベルにおける裾野の広い国際協調の土台もまた極めて重要です。FECによるものを始めとした民間外交・国際親善の推進に一層期待させていただくと共に、官民が心をつなげて、安全・安心できる世界へと歩みを進められればと願っております。
最後になりましたが、FECの皆さまにおかれては、更なるご発展とご活躍を心よりお祈り申し上げます。



「傘回し」の曲芸を披露



見事なバランス芸



幸運を祈願する獅子舞



パケ駐日EU大使からのビデオメッセージ

信越化学工業株式会社 代表取締役 取締役会議長 秋谷 文男	学校法人敬心学園 東京保健医療専門職大学 理事長 小林 光俊	中京倉庫株式会社 代表取締役 社長 朝倉壽美子	サクラグローバル ホールディング株式会社 代表取締役 会長 松本 謙一	東亜合成株式会社 代表取締役 会長CEO 高村美己志	TMI総合法律事務所 顧問 渡部 賢一
柏木総合法律事務所 弁護士 士表 福井 琢	株式会社東横イン 代表執行役 社長 黒田麻衣子	リンナイ株式会社 代表取締役 社長 内藤 弘康	スプリング法律事務所 弁護士 士表 石原 達夫	不二越機械工業株式会社 代表取締役 社長 市川 大造	長野電子工業株式会社 代表取締役 社長 市川 和成
賀 正 本年もよろしく お願い申し上げます 令和8年（順不同） 					
新潟総合警備保障株式会社 代表取締役 社長 廣田 幹人	一般社団法人 リポーンアカデミー 代表理事 (書道家 詠月) 荒尾 美紀	株式会社テクノロジOne 代表取締役 社長 押野 一郎	ミノルホールディングス株式会社 代表取締役 田中 俊昭	直江津電子工業株式会社 代表取締役 社長 小田 哲宏	ジェイティーシー株式会社 会長 藤村 達夫
三興製鋼株式会社 代表取締役 社長 鈴木 史郎	株式会社新開トランスポートシステムズ 代表取締役 会長 古賀 あや	一般財団法人JLEF 創業者 緋田 将士			



地球はつづく、
化学でつなぐ！





医療の進歩に貢献するサクラグループ

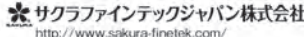
〈皆様をウィルスから守る！〉 〈がんの迅速診断に！〉





サクラ精機株式会社

<http://www.sakurajp.com/>



サクラファインテックジャパン株式会社

<http://www.sakura-finetek.com/>



サクラグローバルホールディング株式会社

<http://www.sakuraghc.com/> TEL.03-3270-1666

野村ホールディングス株式会社 副会長 寺口 智之	民間外交推進協会（FEC） 理事長 松澤 建	大王製紙株式会社 特別顧問 井川 俊高	味の素株式会社 アドバイザー 本橋 弘治	センコーグループ ホールディングス株式会社 代表取締役社長 福田 泰久	信越ポリマー株式会社 取締役会長 小野 義昭
株式会社不二家 代表取締役会長 山田 憲典	コグニティブリサーチラボ株式会社 代表取締役CEO 苔米地英人	電源開発株式会社 代表取締役社長 菅野 等	三好総合法律事務所 弁護士長 三好 徹	イマジネーション株式会社 代表取締役 小笠原有則	株式会社Cominix 取締役会長 柳川 重昌
賀 正 本年もよろしく お願い申し上げます 令和8年（順不同） 				株式会社帝国ホテル 代表取締役社長執行役員 風間 淳	双日株式会社 執行役員 遠藤友美絵
株式会社日栄サービス 代表取締役社長 二宮 恒一	一般社団法人日本能率協会 会長 中村 正己	大和探査技術株式会社 代表取締役 長谷川 俊彦	株式会社インターグループ 代表取締役 小谷 寿平	サンケイ総合印刷株式会社 代表取締役社長 津田 衛	飛悠税理士法人 代表社員 木下 典彦

東京



TOKYO EAST SIDE
HOTEL KAIE

東京イーストサイド ホテル権会
東京都江東区潮見 2-8-11

TEL.03-3699-1403
https://www.hotelkaie.jp

豊洲

潮見

舞浜



JR 京葉線潮見駅 東口前

東京駅から7分。舞浜へは9分。
観光地へのアクセス便利な好立地！



100年の歴史を
紡ぐカクテル

1924年に誕生した帝国ホテル初の
オリジナルカクテル「マウント フジ」を
ご堪能ください。


帝国ホテル

「世界秩序を崩したロシアと中東」

「交渉で平和的に解決できる」は幻想

FECは11月26日、袴田茂樹青山学院大学名誉教授（新潟県立大学名誉教授）を迎えて「世界秩序を崩したロシアと中東」をテーマに第126回ロシア研究会を国際文化会館にて開催した。松澤建FEC理事長の開会挨拶の後、袴田教授による対話型の講演が行われた。

【講演要旨】

先日の大相撲九州場所で、ウクライナ出身の安青錦が優勝した。彼は2004年3月生まれで、22年2月のロシア侵攻当時は17歳であったため国外移動が可能であり、母親とともにドイツへ渡り7歳から始めていた相撲を続けられる環境を求めて来日した。本人の才能と努力による成果であるのはもちろんだが、侵略に苦しむウクライナ国民にとっても大きな励みであり、私は今回の優勝を心から歓迎したいと思っている。

ロシアは22年2月21日に「ドネツク」と「ルハンスク」の独立を承認し、わずか3日後の24日にウクライナへ軍事侵攻を開始した。なぜその直前まで承認を避け、あえて侵攻直前に認めたのか。私の見立てでは両独立国からの「人道要請」を利用し国際法上の正当性を演出するためであった。と考えている。1945年、ソ連はウクライナとベラルーシを国連加盟国として独立国扱いするよう強く求めていたにもかかわらず、現在のロシアは都合に応じ



第126回ロシア研究会

袴田茂樹
青山学院大学
新潟県立大学
名誉教授

て「独立国」を否定し「ロシアの一部」と使い分けている。この矛盾した態度は、ロシアの専門家ですら便宜主義と認めざるを得ず、まさに現在の紛争の根底を成す構造である。

米国で噂されていた28項目の和平案が、最近になって19項目へと簡略化されたとの情報が出ているが、内容も反応も依然不明確なままである。報道では、ロシア側が応じにくいと示唆しており、和平交渉自体が破綻の瀬戸際にあるとも言われる。焦点は、ロシアがどこまで戦争継続力を持ち得るのか、そして経済制裁がどこまで効果を発揮し得るのか、という点である。ロシアは「核大国」と言われながら、いまや北朝鮮のような最貧国から弾薬供給を受けざるを得ない状況である。冷戦後の「平和の配当」は終わり、世界は再び軍備と同盟を前提とした現実へ回帰しつつある。日本で防衛費の増額議論が急に現実味を帯びたのも、その延長線上にある。

私は若い頃、ロシアが「法の独裁」によって近代化へ向かう可能性を支持した時期があった。しかし、ロシアが反人権的な軍事国家・警察国家へと傾くなら、国際社会はそれを阻止すべきであるという考えは今も変わらない。ソ連崩壊後の東欧諸国の多くは、ロシアが根本から変わるなど期待していなかった。私自身も、依然としてその見方が妥当だと考えている。

ハマス、ヒズボラを支援しているイランの政策を日本のメディアはほとんど報じないが、ハマスはイスラエルの国家存立を認めず、その背後にはイランの影響が明確に存在する。イラン憲法は、革命防衛隊を「自国防衛のみならず世界のジハードを遂行する組織」と位置づけ、イスラエルの抹殺を国是として掲げている。この国家姿勢を抜きにして中東情勢を語ることは不誠実であると私は考える。また、ガザ地区の死者数として報じられる6万7000人という数字の信頼性も疑わしい。ハマ

ス支配下の保健当局が唯一の情報源であり、戦争では死者数を政治目的で操作する事例が歴史的に繰り返されてきた。ガザは食糧も水も電力もイスラエルに依存しているにもかかわらず、ハマスはロケット攻撃を続け、住民の犠牲を意図的に利用してイスラエルを悪として描く構図を作っている。報道するか否かはメディアの良心に委ねられているが、日本の多くのメディアがハマス報道に合わせて歪められた事実を伝えているように思えてならない。

国際問題、とりわけロシアや中東のように歴史・宗教・民族・地政学が複雑に絡む問題が「交渉で必ず平和的に解決できる」という考えは幻想である。戦争とは「他の手段による政治」であるというクラウゼヴィッツの言葉の通り、国家の平和と秩序を守るには、時として「戦争の準備」が不可欠である。この現実を日本は直視せねばならない。

「AIの今後の可能性と海外との技術連携について」

知識の組み合わせから次のイノベーションを

私は新卒でNTTに入社し、その後Amazonへ転じ、AWSでクラウドとAIの進化を間近で体験した。2021年に独立し、物流、交通、外食、教育、農業など十数社のデジタル化やAI導入を支援している。

この十数年で、私たちの生活を最も変えたのはスマートフォンだと思う。スマートフォンから得られる行動データに基づきレコメンドが行われ、人の行動が変わっていく。これこそDXの本質であり、消費者の行動だけでなく企業の業務にも同じ変容が起きている。

Uber Eatsやタクシー配車アプリでは、ユーザーと配達員・ドライバーの位置情報をAIが最適化し、「欲しい時に届く・来る」という体験を実現している。海外では混雑状況に応じて料金が変わるダイナミックプライシングも始まっており、価格もリアルタイムで変動する時代に入っている。

デジタル社会では、購入した瞬間が最も新しいという価値観は通用しない。スマートフォンやテスラの車のように、ソフトウェアがアップデートされ続け、使えば使うほど性能が向上する。こうした価値観の転換が広がっている。

Amazonの倉庫では、注文履歴をもとにAIが商品の配置を最適化し、ロ



ボットが棚ごと作業者の前まで運ぶ。翌日配送や当日配送が当たり前になった背景には、データ、AI、クラウドの三位一体の仕組みがある。

AIには段階がある。人感センサーや洗濯機の制御のようなルールベースのAIに対し、今日重要なのは機械学習やディープラーニングである。これらは大量のデータから自律的に学び、判断し、未来を予測する。

国内でも導入が進む。回転寿司では皿のタグで販売状況を把握し、15分後に売れるネタを予測して廃棄を減らす。酪農では牛の行動データから体調悪化のタイミングを検知する。猫の首輪型デバイスでは膨大な行動データから食事や毛づくろいを判定し、健康管理に役立てている。

私が関わった事例では、車のエンジンを遠隔停止できるデバイスを用い、信用情報のない人にもローンを提供す



る仕組みをつくった。返済状況や働きぶりを可視化し、滞ればエンジンを止める。これにより、新興国の人々が仕事の機会を得て生活を向上させる例が生まれている。AIとIoTが新しい金融を生み出した好例である。

近年、特に大きなインパクトを持つのが生成AIだ。従来のAIが「見分ける」技術だったのに対し、生成AIは文章、画像、プログラムなどを自ら生み出す。文脈を理解し、「今日の天気」に合う画像を作って」「この写真から操作手順を説明して」などの高度な依頼にも応えられる。

すでに決算資料からスライドを自動生成するツールも登場し、私自身もAIが整理した資料をそのまま活用している。今後はAlexaなどの音声AIに

も生成AIが組み込まれ、より人間に近い対話が可能になる。

重要なのは、完璧な計画より小さな実験を繰り返すことだ。クラウドは必要な機能を必要なときだけ使え、合わなければすぐ止められる。Amazonの失敗したスマートフォン事業からAlexaが生まれたように、失敗は次のイノベーションの種になる。

異なる知識を持つ人同士が組み合わせられ、新しい発想は生まれやすい。できない理由を探すのではなく、「こうしたらできるかもしれない」という視点でAIや海外との連携を考えてほしい。スマートフォンが単純な組み合わせから世界を変えたように、皆が持つ知識の組み合わせから次のイノベーションが必ず生まれると信じている。

第300回国際研究会

代表取締役
門田進一郎
CLEINKSPACE
(株)

駐日ウクライナ大使を表敬訪問

 松澤建FEC理事長らは11月12日、ユーリ・ルトヴィノフ駐日ウクライナ大使の招きを受け、ウクライナ大使館を訪問した＝写真。松澤理事長とルトヴィノフ大使は10年以上の親交があり、2011年の東日本大震災では、ウクライナから届いた2000枚以上の支援毛布の輸送に、当時大使館員であったルトヴィノフ氏とともに混乱の中で当たった経緯がある。

会談の冒頭、松澤理事長はルトヴィノフ氏の大使着任を祝意し、同大使館でのビジネスフォーラム開催に加え、FECとの一層の交流促進を提案した。これに対し大使はフォーラム開催に同意し、FECとは今後

も協力を維持していく意向を示した。

ルトヴィノフ大使は今年7月に駐日特命全権大使に任命された。日本語に堪能で、日本勤務や留学経験を持つ“日本通”として知られ、日本とウクライナの政治・経済関係を担う要として期待されている。キーウの大学を卒業後、京都の龍谷大学に交換留学し、1995年の外務省入省後は長年外交実務に従事した。2015年から21年までは東京のウクライナ大使館で公使参事官を務め、帰国後は外務省国家儀典局副局長、大統領府欧州・欧州大西洋統合担当を歴任した。欧州・欧州大西洋統合担当では、EU加盟手続きや西側諸国との調整など、国家戦略の中心に関わる役職を務めてきた。



こうした経験が評価され、日本に再び派遣されることとなった。

ロシアの侵攻が続く中、日本の支援は国際的な存在感を増している。日本事情に精通するルトヴィノフ大使の着任は、両国関係の一層の深化につながるとみられる。

エジプト大使館主催の経済セミナーに参加

 エジプト大使館は11月20日、同国が新たに策定した「経済発展ナラティブ」を紹介する経済セミナーを開催した。FECからは小方俊也専務理事並びに中田総務部長が参加した。基調講演には、ラニア・アル＝マシャト企画・経済開発・国際協力相がオンラインで登壇し、エジプト経済の成長戦略と対日協力の可能性を説明した。

同ナラティブは、マクロ経済の安定や外国直接投資、産業開発、労働市場改革、地域計画の5つを柱とする包括的枠組みで、輸出指向型経済への転換と民間部門の活性化を目指す。アル＝マシャト氏は、インフラ、製造業、グリーンエネルギー、物流、デジタル分野などで日本企業に広範なビジネス機会が開かれてい



経済セミナー会場の様子

と強調した。

冒頭ではラギー・エルトレビ駐日大使が挨拶し、両国の戦略的パートナーシップ深化への期待を述べた。



エルトレビ駐日エジプト大使夫妻（右）と小方専務理事

会場には日本政府関係者や企業幹部が参加し、持続的成長に向けた新政策への関心を示した。セミナーは同大使館ファラオニックホールで行われた。

地方間協力の深化へ 首長ら800人参加

「第1回ベトナム・日本の地方協力フォーラム」に参加

 FECは11月23日から26日にかけて、ファム・クアン・ヒエウ駐日ベトナム大使の招待を受け、クアンニン省ハロン市で開催された「第1回ベトナム・日本の地方協力フォーラム」に参加した。本フォーラムは、ファム・ミン・チン首相と石破茂前首相の合意を受けて初めて実施されたもので、地方行政と企業・団体の協力を主題とした両国最大規模の交流イベントである。FECからは小方専務理事、坂石麗名企画事業部課長のほか、会員企業から加藤運輸(株)の代表取締役社長加藤裕久氏、一般社団法人リボーンアカデミー代表理事詠月氏が参加した。また、TMI総合法律事務所ハノイオフィスから小幡葉子氏、同ホーチミンオフィスから小林亮氏が参加した。

25日の本会議には、ファム・ミン・チン首相をはじめ、レ・ホアイ・チュン外務大臣、国内31省・市の地方代表が出席し、日本側からは高市早苗総理大臣によるビデオメッセージ、伊藤直樹駐ベトナム日本大使、地方自治体の首長・幹部、日系企業関係者など約800人が参加した。冒頭、伊藤大使が高市早苗首相のメッセージを代読し、両国の地方間協力の深化が持続的成長の基盤となると述べた。

続いて登壇したチン首相は、1300年以上の交流の歴史と50年を超える外交関係の成果に触れ、両国が「包括的戦略的パートナーシップ」へ格上げされて以降、

協力が経済・社会・文化の各分野で大きく発展していると強調した。さらに首相は、地方間協力には依然として広大な潜在力があり、「より良い仕事、より高い収入、より良いスキル」を目標に、デジタル技術、AI、スマートシティ、半導体、スタートアップ支援などの分野で協力モデルを構築する方針を示した。また、日本側には、デジタル化やイノベーション、人材育成に関する政策立案能力の向上に向け、経験共有と協力の強化を求めた。

会場では両国の地方代表が順次登壇し、日本各地の取り組みやベトナムとの連携の可能性について発表した。群馬県の山本一太知事は、ニンビン省との協力覚書の締結やIT分野での交流拡大への意欲を語った。さらに山梨県、新潟県、徳島県、大阪府、島根県、広島県、宮城県、長野県の各自治体幹部が、自県の産業、観光、人材交流の強みと将来の協力希望を紹介し、会場は活発な情報交換に包まれた。

午後からは貿易・投資、人材、高品質農業、文化・観光、イノベーション、気候変動対策など4つのテーマ別セッションが開催され、各分野の政府関係者、地方自治体、企業が事例と課題を共有した。ヒエウ大使は、両国の補完性が高い分野としてサプライチェーン再編、高度農業、人材育成を挙げ、日本語資料集やAIチャットボットなど大使館の新たな地方協力支援策を紹介し、在日大使館と



ベトナム・チン首相との記念撮影



ヒエウ駐日ベトナム大使（左）と小方専務理事



世界遺産のハロン湾



グランハロン国際会議センター

して協力強化に積極的に取り組む姿勢を示した。

なお、小方専務理事もヒエウ大使のご厚意でチン首相との会談に列席させていただいた。今回のフォーラムは、ベトナムと日本の地方協力が新たな段階に入ったことを象徴するものであり、FECと

しても今後、会員企業を含む幅広いネットワークを活かし、両国の交流と協力の一層の発展に寄与していく方針である。

Courtesy Call

■エジプト・アラブ共和国大使

政治・経済・文化の3分野で関係強化を



▷11月10日＝ラギィ・モハメド・モハメド・エルエトレビ駐日エジプト・アラブ共和国大使

小方俊也FEC専務理事はラギィ・モハメド・モハメド・エルエトレビ駐日エジプト・アラブ共和国大使を訪問した。大使はカイロ大学で経済学士号、ジュネーブ国際関係学院で国際政治経済修士号を取得。駐カナダエジプト大使館、駐日エジプト大使館での経験ほかキャリアの大半をWTO、国連、世界銀行の国際機関、大統領個人代表（G20、BRICS）などを経験し、直近は外務次官補（多国間・国際・地域経済担当）を経て本年9月来日し12月4日に信任状を捧呈。

【大使コメント】

私と日本との関わりは長く、約15年前に在日エジプト大使館で首席公使として勤務した際、日本社会の規律や調和、礼

節の文化を直接知った。実際の勤務を通じて、日本の社会の安定性と人々の誠実さに強い印象を受けた。今回、大使として再び日本に着任したことに大きな責務を感じるとともに以前からの関係をさらに深める機会であると考えている。

日本に滞在して感じるのは、社会に根付く公共心の高さである。礼儀や思いやりが日常に自然に息づき、公共交通や都市生活でも一貫した配慮が見られる。この文化は、国際社会で日本が信頼される要因となっている。

エジプトと日本は、長い歴史の中で信頼関係を築いてきた。19世紀のサムライ使節団訪問以来、教育、インフラ、文化、考古学などで協力を進めてきた。大エジプト博物館は両国協力の象徴であり、今後も文化・学術交流の拠点として重要な役割を果たすだろう。両国は平

和、安定、持続可能な発展という共通の目標を持ち、この分野での協力をさらに強化できると考えている。

大使としては、政治・経済・文化の3分野で関係強化を目指している。特に経済では、再生可能エネルギー、製造業、物流、デジタルなどエジプトが注力する産業で日本の投資や技術協力を促進したい。さらに、エジプトの若い人口と成長市場を日本企業に理解してもらい、双方に利益をもたらす協力を広げたい。

文化・人的交流の拡大も重視している。日本の方々に、エジプトを歴史だけでなく、現在の社会の活力と創造性を持つ国として知ってほしい。私と妻は、両国の人々が互いの文化に触れ合える場を増やし、交流を促す活動を積極的に行うつもりである。

日本の皆様には、エジプトが日本との

友好を深く重視していることを理解してほしい。両国関係は政府間だけでなく、人と人のつながりに支えられてきた。日本社会の粘り強さや丁寧さは、エジプトが大切にする強靱さや創造性に通じる部分が多い。互いに学び合うことで、両国社会はさらに発展できると確信している。

エジプトは古代文明の国であると同時に、社会や経済が大きく変化している国でもある。再生可能エネルギー、物流、教育、観光などで改革を進め、未来への可能性も広がっている。日本の皆様には、エジプトを過去の遺産だけでなく、将来性あるパートナーとして見ていただきたい。今後、両国が協力し合い、より良い関係を築いていくことを強く望んでいる。

エジプトは古代文明の国であると同時に、社会や経済が大きく変化している国でもある。再生可能エネルギー、物流、教育、観光などで改革を進め、未来への可能性も広がっている。日本の皆様には、エジプトを過去の遺産だけでなく、将来性あるパートナーとして見ていただきたい。今後、両国が協力し合い、より良い関係を築いていくことを強く望んでいる。



Celebration



【11月20日】
オマーン・スルタン国
ナショナルデーレセプ
ションにてアル・ブサ
イディ駐日大使（右）
と松澤建FEC理事長



【11月28日】
ラオス人民民主共和国建国
50周年記念レセプションに
てアンパイ・キンダヴォン
駐日大使夫妻（中央）と小
方専務理事



FEC 活動日誌

今後の催しのご案内

◆1月21日（水）14時～16時
第96回アセアン研究会
講 師：平林邦彦国際機関日本アセアン
センター事務総長
テーマ：デジタルとグリーンがつなぐ
ASEAN
会 場：オンライン

◆1月22日（木）14時～16時
第301回国際研究会
講 師：本田悦朗元内閣官房参与
テーマ：高市政権の経済政策
会 場：国際文化会館
◆1月29日（木）14時～16時
第51回米国研究会
講 師：渡辺靖慶應義塾大学環境情報学
部教授
テーマ：変容する米国民主義—制度疲

労と再構築の可能性
会 場：国際文化会館
◆2月3日（火）16時～18時
第302回国際研究会
講 師：高野雅晴(株)ビットメディア代表
取締役社長
テーマ：Future Lab.「ワット・ピッ
ト連携」がもたらす未来～豊かな
地域、豊かな日本のための羅
針盤
会 場：青山Devcafe
◆2月5日（木）14時～16時
第154回欧州研究会
（スペイン・ビジネスフォーラム）
内 容：イニゴ・デ・パラシオ・エスパー
ニャ大使の講演ほか
会 場：スペイン大使館
◆2月16日（月）11時～13時
関西新春国際セミナー
講 師：三澤康大使（関西担当）

テーマ：転換期にある国際社会・外交官
としての経験 ～大阪・関西万
博以降の関西について～（仮）
会 場：ホテルオークラ

海外訪問団のご案内

第22次FECアセアン訪問団
（シンガポールとフィリピン）
期 間：2026年3月8日（日）
～14日（土）
訪問都市：シンガポール、マニラ

協会だより

【新名誉会員】



アルベルト・パウロ氏
（モザンビーク共和国
大使） エドゥアルド
・モンドラーネ大学法
学部卒。モザンビーク

高等科学技術研究所にて法学修士号取得。法務省国立法律扶助研究所の法律助手および技術者、モザンビーク港湾鉄道公社取締役会顧問等を歴任し、2007年検察高等評議会のメンバー、11年司法副長官、19年副検事総長。25年より駐日大使。

訂正

FEC News12月号
「明治神宮流鏑馬神事に
参列」の写真説明で、「奥山幸猛
（公社）大日本弓馬会副会長夫妻」
とあるのは養老朝枝様（養老孟司夫
人）と奥山幸猛（公社）大日本弓馬
会副会長の誤りでした。訂正してお
詫びします。

**ホームセキュリティは
ALSOK**

ALways Security OK 新潟総合警備保障株式会社
0120-39-2413 (年中無休 24時間受付)

https://www.ngtalsok.co.jp/